2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月5日

上場会社名	京福電気鉄道株式会社	上場取引所	東
コード番号	9049 URL https://www.keifuku.co.jp/		
代表者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名) 大塚 憲郎	
問合せ先責任者	(役職名) 取締役 管理部長	(氏名) 長尾 拡昭	TEL 075-841-9385
四半期報告書提出予定日	2020年2月12日		
配当支払開始予定日	―		
四半期決算補足説明資料作成の有無 :	無		
四半期決算説明会開催の有無 :	無		

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	9,877	2.6	1,317	9.6	1,303	9.6	824	11.3
2019年3月期第3四半期	9,626	9.5	1,202	25.7	1,189	27.3	740	28.6

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 961百万円 (25.9%) 2019年3月期第3四半期 764百万円 (14.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	414.91	―
2019年3月期第3四半期	372.70	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	20,651	8,437	37.1
2019年3月期	20,120	7,520	34.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 7,665百万円 2019年3月期 6,837百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	―	0.00	―	20.00	20.00
2020年3月期	―	0.00	―		
2020年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年 3月期の連結業績予想(2019年 4月 1日～2020年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,670	2.1	980	6.4	950	8.8	720	3.0	362.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　：　無

新規　―　社　（社名）　、　除外　―　社　（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

② ①以外の会計方針の変更　：　無

③ 会計上の見積りの変更　：　無

④ 修正再表示　：　無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	2,000,000 株	2019年3月期	2,000,000 株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	11,987 株	2019年3月期	11,811 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	1,988,068 株	2019年3月期3Q	1,988,196 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績はさまざまな要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については3ページ「1．当四半期決算に関する定性的情報　(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 6
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書 7
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外情勢における各種不安材料や消費税率引上げに伴う消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、先行きに不透明感はあるものの、概ね堅調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは、運輸、不動産、レジャー・サービスの各事業において安定的な収益確保に努めました結果、当第３四半期連結累計期間の当社グループ営業収益は9,877百万円（前年同期比250百万円、2.6%増）となり、営業利益は1,317百万円（前年同期比115百万円、9.6%増）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は1,303百万円（前年同期比114百万円、9.6%増）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は824百万円（前年同期比83百万円、11.3%増）となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

①　運輸業

鉄軌道事業におきましては、温暖な気候に恵まれ例年に比べ紅葉期間が長期化したこともあり、お客様のご利用は堅調に推移しました。嵐山線では、2019年春に修復落慶した仁和寺観音堂の仏像や障壁画を車内外にデザインした嵐電「観音電車」が多くのマスコミで取り上げられ、当初予定よりも運行期間を延長するなど多くのお客様にご利用いただきました。また、安全性及び利便性の向上を目的として「北野白梅町」駅のリニューアル工事に着手しました。この工事によりバリアフリー化を推進するとともに、駅とバス停を一体化することで嵐山エリアと金閣寺方面とのアクセスルートを明確化し、地域ならびに観光の拠点として、安心してご利用いただける駅を目指します。鋼索線（叡山ケーブル・ロープウェイ）では、紅葉の名所瑠璃光院秋の特別拝観とケーブルカーの乗車券をセットにした商品を販売したほか、今季の営業期間を2020年１月５日まで繰り下げたことなどにより増収となりました。

バス運送事業におきましては、京都バス㈱では、IC定期券の利用が堅調であったほか、京都市交通局と連携し、秋の観光シーズンには地下鉄国際会館駅から大原への臨時便を増発するなど、市内中心部の交通渋滞緩和に向けた取組みを行いました。また、かねてより進めていました嵐山車両整備工場の新築工事が竣工し供用を開始しました。今後も老朽化施設の更新を進めることで、安全性と効率性の向上を図ります。京福バス㈱では、回数券の自動発券による発売などのサービス向上を進めました。また、消費税率の引き上げに伴い、10月に22年振りに運賃改定を実施しました。尚、現在福井市内においてバス・タクシー事業の拠点集約化ならびに保有土地の有効活用に向けたプロジェクトを進行するなど、中期経営計画に沿って事業を推進しております。

以上の結果、運輸業の営業収益は6,110百万円（前年同期比10百万円、0.2%増）となり、営業利益は601百万円（前年同期比38百万円、6.9%増）となりました。

②　不動産業

不動産賃貸事業におきましては、「ランフォート西院」「コンソラーレ土佐堀」ほか京都・福井の各賃貸物件について積極的な営業活動を継続して実施し、高い入居率を確保しました。不動産販売事業では、嵐電沿線人口の増加を目的とした「らんでんすもすもプロジェクト」において、新築戸建分譲用用地５物件と事業用用地１物件を取得し、分譲および賃貸住居の事業開始に向けた建築工事を進めています。今後も、引き続き新たな戸建分譲用用地の仕入れや借上げ物件の確保を進めてまいります。「BOAT RACE（ボートレース）　三国」では、12月にG1北陸艇王決戦レースが開催されたほか、他場レースの投票機会の増加、スマートフォン等への情報発信やキャンペーンなどが舟券売上の上昇につながり、賃貸収入が増加しました。

以上の結果、不動産業の営業収益は2,603百万円（前年同期比274百万円、11.8%増）となり、営業利益は584百万円（前年同期比64百万円、12.4%増）となりました。

③　レジャー・サービス業

飲食、物販業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、秋の行楽シーズン以降も好天に恵まれたこともあり、直営店舗「らんでんや」において企画販売を実施した、アニメ「鬼滅の刃」とのコラボレーションメニューやグッズの売れ行きが好調に推移しました。「三国観光ホテル」や「ホテル京福福井駅前」では、エージェントへの営業促進に加え、インターネット販売を強化することで客室稼働率の向上に努めました。「越前松島水族館」では、開館60周年の企画の「ふれあいタッチコーナー」が好評を博し、暖冬の影響もあり多くのファミリー層にご来館いただきました。

以上のとおり営業活動に努めた結果、2019年３月末の飲食業「八幡家」の営業契約終了に伴う減収を回復するまでには至らないものの利益は改善し、レジャー・サービス業の営業収益は1,519百万円（前年同期比55百万円、3.5%減）、営業利益は128百万円（前年同期比７百万円、6.5%増）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の資産は、固定資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ530百万円増加し、20,651百万円となりました。負債は、借入金や未払金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ386百万円減少し、12,213百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ917百万円増加し、8,437百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年11月６日の「2020年３月期 第２四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2019年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,028	1,042
受取手形及び売掛金	1,236	1,260
販売土地及び建物	77	96
商品及び製品	26	26
仕掛品	0	170
原材料及び貯蔵品	42	45
前払費用	37	47
その他	549	529
貸倒引当金	△3	△8
流動資産合計	2,995	3,211
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,693	9,575
機械装置及び運搬具（純額）	1,463	1,344
土地	3,886	3,927
リース資産（純額）	840	953
建設仮勘定	21	441
その他（純額）	349	306
有形固定資産合計	16,254	16,550
無形固定資産	183	166
投資その他の資産		
投資有価証券	247	310
繰延税金資産	170	159
その他	277	257
貸倒引当金	△10	△3
投資その他の資産合計	685	723
固定資産合計	17,124	17,439
繰延資産		
社債発行費	1	0
繰延資産合計	1	0
資産合計	20,120	20,651

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2019年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	51	59
短期借入金	3,509	3,543
1年内償還予定の社債	45	42
リース債務	155	166
未払金	1,110	861
未払法人税等	274	269
未払消費税等	78	191
賞与引当金	216	101
その他	511	497
流動負債合計	5,953	5,733
固定負債		
社債	19	－
長期借入金	4,310	4,113
リース債務	735	830
長期未払金	345	289
繰延税金負債	622	649
役員退職慰労引当金	53	48
退職給付に係る負債	237	232
その他	322	316
固定負債合計	6,646	6,480
負債合計	12,599	12,213
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	291	292
利益剰余金	5,511	6,296
自己株式	△19	△19
株主資本合計	6,783	7,568
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	53	96
その他の包括利益累計額合計	53	96
非支配株主持分	683	772
純資産合計	7,520	8,437
負債純資産合計	20,120	20,651

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2018年４月１日 至　2018年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2019年４月１日 至　2019年12月31日）
営業収益	9,626	9,877
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,348	8,483
販売費及び一般管理費	75	76
営業費合計	8,424	8,560
営業利益	1,202	1,317
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	8	8
雑収入	29	20
営業外収益合計	38	30
営業外費用		
支払利息	37	38
社債発行費償却	0	0
雑支出	12	4
営業外費用合計	50	43
経常利益	1,189	1,303
特別利益		
受取保険金	29	35
補助金収入	－	32
固定資産売却益	95	8
特別利益合計	124	75
特別損失		
固定資産除却損	49	12
災害による損失	59	－
減損損失	6	－
特別損失合計	115	12
税金等調整前四半期純利益	1,198	1,367
法人税、住民税及び事業税	414	428
法人税等調整額	△26	20
法人税等合計	387	448
四半期純利益	810	918
非支配株主に帰属する四半期純利益	69	93
親会社株主に帰属する四半期純利益	740	824

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2018年４月１日 至　2018年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2019年４月１日 至　2019年12月31日）
四半期純利益	810	918
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△46	43
その他の包括利益合計	△46	43
四半期包括利益	764	961
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	694	868
非支配株主に係る四半期包括利益	69	93

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2018年４月１日　至　2018年12月31日）

１．報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	運輸業	不動産業	レジャー・サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	6,084	2,190	1,352	9,626	－	9,626
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	14	138	222	376	△376	－
計	6,099	2,329	1,574	10,003	△376	9,626
セグメント利益	563	519	121	1,203	△1	1,202

（注）１　セグメント利益の調整額△１百万円はセグメント間取引消去額です。

２　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2019年４月１日　至　2019年12月31日）

１．報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	運輸業	不動産業	レジャー・サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	6,095	2,463	1,318	9,877	－	9,877
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	15	139	201	355	△355	－
計	6,110	2,603	1,519	10,233	△355	9,877
セグメント利益	601	584	128	1,315	2	1,317

（注）１　セグメント利益の調整額２百万円はセグメント間取引消去額です。

２　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。